

配偶者への役割期待の変化に関する調査研究

女子大学生を対象として

Surveillance Research about Transformation of the Expected Role of a spouse by Women Students

原崎 聖子*・篠原 しのぶ*・彌 永和美**・渡邊 晴美*

Seiko Harasaki・Shinobu Shinohara・Kazumi Iyonaga・Harumi Watanabe

【目的】

昨年、子ども発達学科が基礎カリキュラムとして位置付けている生活基礎技能の内容を検討するにあたり、我々はまず日常の衣食住に対する現状を把握するために、自宅から通学している女子大学生に対して、日頃、食事や掃除などの家事を行うかどうかを聞いてみた。その結果「朝食の準備を全くしない」31.2%、「朝食後片付けを全くしない」16.9%、「住まいのトイレ掃除を全くしない」36.4%など、いわゆる家事に関して「全くしない」という数がかかなりあることが分かった。

戦後、1950年から1960年以降の自由と平等を求める世界的な運動は日本においても女性の地位の変化へと繋がり、女性の資本主義的競争社会への参加を推進することとなった。その過程において、社会は交換価値を生み出すものに価値を認めるようになり、男子も女子も交換価値を生み出す存在として社会に貢献することを勉学の目的としてきた。その結果、家庭における炊事・洗濯・買い物・育児や介護などの労働を家族の一員が家族のために行うなど交換価値を生み出さない労働は、価値が低いものとする風潮が定着してきた。この考え方は家事そのものや家事のみをおこなう者に対して社会的価値を低く見積もることとなっていると言えよう。

また、1988年の総務庁青少年対策本部「世界青少年意識調査」の「男は外で働き女は家庭を守るべきだ」という問への賛否では、スウェーデン賛成6.3%・反

対90.6%、アメリカ賛成18.5%・反対80.8%、韓国賛成35.9%・反対60.7%、日本賛成30.6%・反対43.7%というように、性により家庭の役割を決定することには、国によってかなり意識の差があることが分かった。また、欧米が性による役割の分担に対して反対意見を明確に打ち出しているのに比べて、アジア圏では性差に応じた役割の存在を比較的受け入れていると言える。

さらに、日本の特徴として、無回答が25.7%と他国に比べ全回答の4分の1を占めている。これは第1には、純粋に賛成・反対のどちらとも言えないという回答が考えられるが、第2には、交換価値を生み出さない役割を女性が担うべきであるという日本の社会的な好ましさを意識し、性役割分担に反対という明確な意志を表出することを躊躇したということも考えられるのではないだろうか。

われわれは、1990年より数年間に渡り当時の若者が家庭内役割に関して配偶者にどのような期待を持っているのかを、家事を中心とした具体的項目をあげて大学生を中心に調査してきた。その結果、夫婦を単位とした相互コミュニケーションや協力体制を重視しており、戦前の家父長制度から想像される男性的役割、女性的役割項目への期待は薄れていることがわかった。しかしながらその1990年当時においても炊事・洗濯などの「家事」については、男子学生は配偶者に期待し、女子学生は配偶者に期待しないという配偶者への期待に性差が認められる結果が得られている。

時代は21世紀に入り生活はさらに大きく変化を遂げ、レトルト食品、コンビニエンスストアや外食産業の発展により食事作りにさほど時間がかからなくなった。

*福岡女学院大学

**活水女子大学

また、電化製品の進化は家事一般から荷重労働をさらに減少させ、機械化・電子化は労働の質を変え、仕事内容の肉体的・精神的男女差を必要としないものとなりつつある。そのような中、近年、男性向けの家事・育児に関する書物や雑誌も増加し、家庭内の育児や家事に関して過大な負担感を覚えず自然体で従事する男性が増えている。

前回、配偶者に対する役割期待を調査して20年以上が過ぎ、これらの状況を踏まえた上で、改めて若者が家庭内での役割分担についてどのような意識を持っているのかを調べることは今後の夫婦のあり方がどのような方向性をたどるのかを考える上でも意味があると考えられる。

本研究においては、1991年に使用した質問紙を用いて調査することで20年前の資料と比較しながら現代の女子大学生の性役割意識について捉えてみたいと思う。

【調査手続き】

調査対象者 大学1年生 女子 110名
 調査期日 2013年11月
 比較対象者 大学1年生 女子 270名
 調査期日 1991年9月

調査内容

家庭内役割等の配偶者への期待 25項目
 家庭内役割等の配偶者からの期待 25項目

(内容)

- ・家庭管理 7項目
- ・家事労働 5項目
- ・人間関係 4項目
- ・夫婦協調 9項目 合計25項目

各項目に 非常にあてはまる・・・5
 かなりあてはまる・・・4
 どちらともいえない・・・3
 あまりあてはまらない・・・2
 全くあてはまらない・・・1
 の5段階評定

【結果と考察】

I. 家庭内役割の配偶者への期待

1. 2013年の平均より

配偶者に期待する各項目の平均値を高い順に並べたものを表1に示す。これによると、まず、1位に「あなたの親を大切にしてもらいたい」4.83、3位に「家族の団樂を大切にしてもらいたい」4.79、5位に「私

表1 家庭内役割の配偶者への期待 (2013年)

内容	NO	順位	項目内容	平均	標準偏差	人数
C	11	1	あなたの親を大切にしてもらいたい	4.83	.449	110
A	2	1	生活費をきちんといれてもらいたい	4.83	.402	110
A	13	3	家庭の団樂を大切にしてもらいたい	4.79	.454	110
D	6	3	自分の健康に気をつけてもらいたい	4.79	.476	110
C	10	5	私の親を大切にしてもらいたい	4.67	.776	110
A	1	6	職務に忠実であってほしい	4.53	.593	110
D	12	7	私の職業や活動を理解してほしい	4.47	.729	110
D	5	8	私の話を聞いてほしい	4.46	.656	110
D	16	9	私によく話してほしい	4.43	.669	110
A	21	10	家計に関心をもってもらいたい	4.34	.682	110
D	14	11	夫婦で一緒に遊ぶ機会を作ってもらいたい	4.26	.833	110
D	15	12	私の交際会合出席を自由にさせてもらいたい	4.24	.750	110
D	7	13	教養を身につけてもらいたい	4.22	.782	110
A	8	13	計画性をもってもらいたい	4.22	.769	110
C	4	15	社会に関心を持ってほしい	4.19	.689	110
C	20	15	近所づきあいをうまくしてほしい	4.19	.784	110
B	22	17	きちんと整理整頓してほしい	4.04	.774	110
B	9	18	壊れたものの修理をしてほしい	3.77	.968	110
A	17	19	在宅時間を多くしてほしい	3.62	.936	110
D	18	20	性生活に調和するようにしてほしい	3.49	.795	110
B	24	21	掃除・洗濯をしてほしい	3.39	.959	110
B	23	22	炊事・後片付けをしてほしい	3.37	.913	110
A	3	23	家庭の中の重大問題を決めてほしい	3.36	.855	110
D	19	24	趣味や娯楽で一致するようにしてほしい	3.25	.953	110
B	25	25	食料の買出しをしてほしい	3.14	.980	110

表中 A:家庭管理 B:家事労働 C:人間関係 D:夫婦協調(1991年の分類による)

の親を大切にしてもらいたい」4.67が挙げられており、配偶者には、まず家族を中心に考え、特に親を大事にする気持ちを求めている。

次に同率1位に「生活費をきちんと入れてもらいたい」4.83、同率3位に「健康に気をつけてもらいたい」4.79、6位に「職務に忠実であってほしい」4.53、など配偶者に家庭の経済的な基盤を求めていることがわかる。7～9位には「私の職業や活動を理解してもらいたい」4.47、「私の話を聞いてもらいたい」4.46、「私によく話をしてもらいたい」4.43などの項目があり、夫婦対話をしながら自分に対する理解を深めてほしいと求めている姿が見える。

13位から15位には、「教養を身に付けてほしい」4.22、「計画性を持ってほしい」4.22、などの項目がきており配偶者の人格向上を期待している。

中位にあるのは「社会に関心を持ってほしい」4.19、「近所付き合いをうまくしてほしい」4.19、など社会への意識と、「きちんと整理整頓をしてもらいたい」4.04、「壊れたものの修理をしてもらいたい」3.77、「在宅時間を多くしてもらいたい」3.62など家庭への関心となっている。

下位の項目としては「掃除・洗濯をしてもらいたい」3.39、「炊事・後片付けをしてもらいたい」3.37、「食料の買い出しをしてもらいたい」3.14などのいわゆる家事への期待がきている。また「家庭の中の重大問題を決めてもらいたい」3.36、「趣味や娯楽で一致するようにしてもらいたい」3.25は家事と同程度に低い値となっている。

このように見ていくと、配偶者に期待するものの順番としては、「親・家族の重視」「経済的基盤」「私の理解」「あなたの人格向上」「社会・家庭への関心」「家事」となっており、その特徴として次のようなことが挙げられる。親に対する尊敬や感謝の気持ちが現代においても最重要視されている「私への理解」が「あなたの人格向上」よりも上位にあり愛他性より自己愛が高い「経済的基盤」を配偶者に求めて「家事」を配偶者に求めず、夫（男性）・妻（女性）の役割意識が感じられる。

2. 2013年と1991年の平均値比較より

配偶者に期待する2013年の平均値と1991年当時の平均値の比較を図1に、また、期待の平均で2013年が高

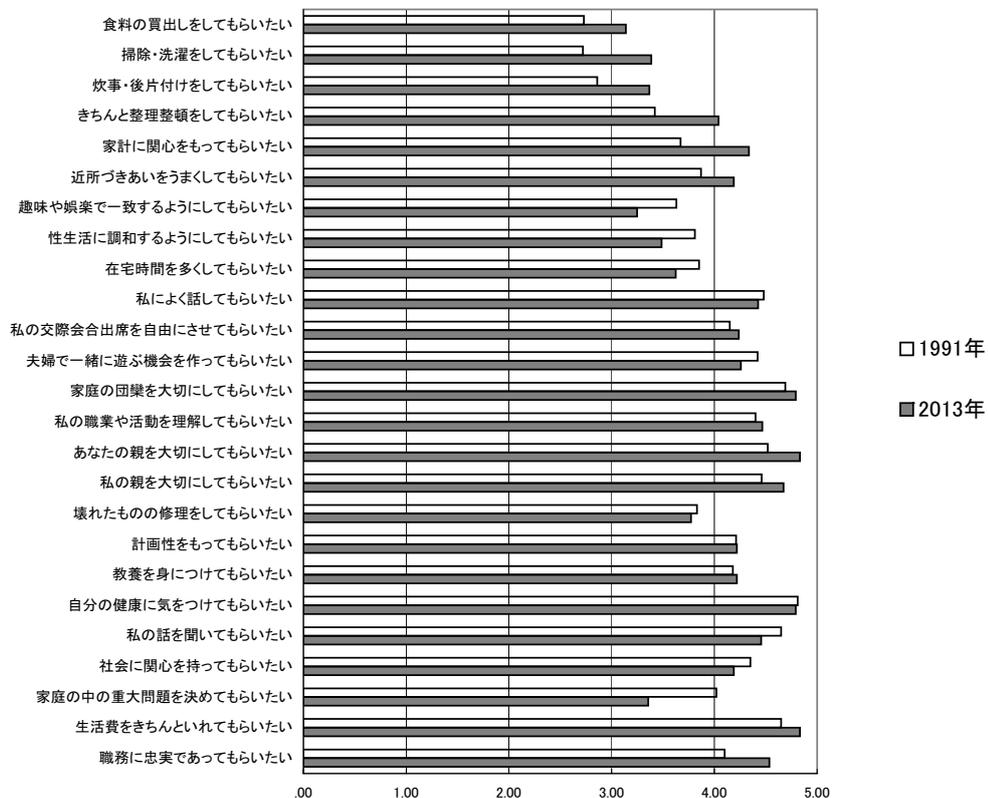


図1 配偶者への期待値比較

表 2 配偶者への期待平均値の年次比較

NO	項目	内容	2013年度(N=110)		1991年度(N=270)		t値	検定
			平均	標準偏差	平均	標準偏差		
21	家計に関心をもってもらいたい	A	4.34	.682	3.67	.880	7.10	***
22	きちんと整理整頓をしてもらいたい	B	4.04	.774	3.42	.850	6.59	***
1	職務に忠実であってほしい	C	4.53	.593	4.10	.640	6.12	***
24	掃除・洗濯をしてもらいたい	B	3.39	.959	2.72	.980	6.03	***
11	あなたの親を大切にしてほしい	C	4.83	.449	4.52	.630	4.71	***
23	炊事・後片付けをしてもらいたい	B	3.37	.913	2.86	1.030	4.47	***
20	近所づきあいをうまくしてもらいたい	C	4.19	.784	3.87	.710	3.83	***
25	食料の買い出しをしてもらいたい	B	3.14	.980	2.73	.980	3.68	***
2	生活費をきちんといれてもらいたい	A	4.83	.402	4.65	.520	3.28	**
10	私の親を大切にしてほしい	C	4.67	.776	4.46	.660	2.70	**
13	家庭の団欒を大切にほしい	A	4.79	.454	4.69	.500	1.85	n.s.
15	私の交際会合出席を自由にさせてほしい	D	4.24	.750	4.15	.720	1.06	n.s.
12	私の職業や活動を理解してほしい	D	4.47	.729	4.40	.610	0.89	n.s.
7	教養を身につけてほしい	D	4.22	.782	4.18	.700	0.46	n.s.
8	計画性をもってもらいたい	A	4.22	.769	4.21	.710	0.09	n.s.
6	自分の健康に気をつけてほしい	D	4.79	.476	4.81	.420	-0.36	n.s.
9	壊れたものの修理をしてほしい	B	3.77	.968	3.83	.840	-0.58	n.s.
16	私によく話してほしい	D	4.43	.669	4.48	.620	-0.75	n.s.
14	夫婦で一緒に遊ぶ機会を作ってもらいたい	D	4.26	.833	4.42	.680	-1.97	*
4	社会に関心を持ってほしい	C	4.19	.689	4.35	.560	-2.38	**
17	在宅時間を多くしてほしい	A	3.62	.936	3.85	.760	-2.45	**
5	私の話を聞いてほしい	D	4.46	.656	4.65	.540	-2.98	**
18	性生活に調和するようにしてほしい	D	3.49	.795	3.81	.830	-3.49	***
19	趣味や娯楽で一致するようにしてほしい	D	3.25	.953	3.63	.830	-3.89	***
3	家庭の中の重大問題を決めてほしい	A	3.36	.855	4.02	.750	-7.48	***

表中 ****・0.1%, ***・1%, **・5% 水準の有意差を示す。

い項目から1991年が高い項目へと有意差順に並べたものが表2である。

これによると2013年が有意に高い項目として「家計に関心を持ってほしい」($t = 7.10, df = 378, p < .001$)、「整理整頓をしてほしい」($t = 6.59, df = 378, p < .001$)、「職務に忠実であってほしい」($t = 6.11, df = 378, p < .001$)、「掃除・洗濯をしてもらいたい」($t = 6.03, df = 378, p < .001$)、「あなたの親を大切にしてほしい」($t = 4.71, df = 378, p < .001$)、「炊事・後片付けをしてもらいたい」($t = 4.47, df = 378, p < .001$)、「近所づきあいをうまくしてもらいたい」($t = 3.83, df = 378, p < .001$)「食料の買い出しをしてもらいたい」($t = 3.67, df = 378, p < .001$) など、家事を中心とした項目がきている。

逆に1991年が有意に高い項目は、「家庭の中の重大問題を決めてもらいたい」($t = 7.48, df = 378, p < .001$)、「趣味や娯楽で一致するようにしてほしい」($t = 3.88, df = 378, p < .001$)、「性生活に調和するようにしてほしい」($t = 3.49, df = 378, p < .001$)、「私の話を聞いてほしい」($t = 2.97, df = 378, p < .001$)、「在宅時間を多くしてほしい」($t = 2.44, df = 378, p < .01$)、「社会に関心を持ってほしい」

($t = 2.37, df = 378, p < .01$) となっている。

これらの比較から言えることは、1991年当時は現在に比べ、配偶者に対して夫婦間でのコミュニケーションや夫婦間で過ごす時間などを期待している一方で、家事は配偶者に期待せず、重要問題の解決は配偶者に求めるなど家庭内で役割を分担しながら協力体制を取ることが期待していたと考えられる。

これに対して、2013年に期待する項目は役割を分担するというだけでなく経済面に関しても、家事、人間関係に関しても個人対個人として自立した生活ができることを配偶者に期待している姿が見えてくる。

また、1991年から2013年にかけての順位変動を表3に表すと4ランク以上順位を上げている項目は「職務に忠実であってほしい」「きちんと整理整頓をしてもらいたい」「あなたの親を大切にほしい」「掃除・洗濯をしてもらいたい」であり、4ランク以上順位を下げているものが「家庭内の重大問題を決めてもらいたい」「社会に関心を持ってほしい」となっている。

この変化からも、2013年の女子大学生は、配偶者に家庭内外での自立を期待するということと同時に、家父長制度より引き継がれてきた「家庭内での重要な決め事は先ず父親に決定権がある」という感覚がかなり

表3 配偶者への期待順位と変動

NO	項目	2013年	1991年	順位差
		順位	順位	
1	職務に忠実であってほしい	6	14	8
2	生活費をきちんといれてほしい	2	3	1
3	家庭の中の重大問題を決めてほしい	23	15	-8
4	社会に関心を持ってほしい	15	10	-5
5	私の話を聞いてほしい	8	4	-4
6	自分の健康に気をつけてほしい	4	1	-3
7	教養を身につけてほしい	13	12	-1
8	計画性をもってほしい	14	11	-3
9	壊れたものの修理をしてほしい	18	18	0
10	私の親を大切にしてほしい	5	7	2
11	あなたの親を大切にしてほしい	1	5	4
12	私の職業や活動を理解してほしい	7	9	2
13	家庭の団楽を大切にしてほしい	3	2	-1
14	夫婦で一緒に遊ぶ機会を作してほしい	11	8	-3
15	私の交際会合出席を自由にさせてほしい	12	13	1
16	私によく話してほしい	9	6	-3
17	在宅時間を多くしてほしい	19	17	-2
18	性生活に調和するようにしてほしい	20	19	-1
19	趣味や娯楽で一致するようにしてほしい	24	21	-3
20	近所づきあいをうまくしてほしい	16	16	0
21	家計に関心をもってほしい	10	20	10
22	きちんと整理整頓してほしい	17	22	5
23	炊事・後片付けをしてほしい	22	23	1
24	掃除・洗濯をしてほしい	21	25	4
25	食料の買出しをしてほしい	25	24	-1

薄れて、配偶者と共に家庭を守っていく同土としての役割を期待している様相が伺える。

II. 家庭内役割の配偶者からの期待

1. 2013年の平均より

配偶者にどのような家庭内役割をどの程度期待されているかという問に対する各項目の平均値を高いものから並べたものが表4である。これによると「私（配偶者）の親を大切にしてほしい」4.85、「家計に関心を持ってほしい」4.83、「炊事・後片付けをしてほしい」4.83、「掃除・洗濯をしてほしい」が4.82で高く、「整理整頓をしてほしい」4.79、「あなた（回答者）の親を大切にしてほしい」4.78と続いている。これらの項目をみると家庭内での家事は自分（女性）に大きく期待されていると感じていることがわかる。

また、「親を大切にする」という項目の平均値は配偶者に期待する場合と同様に高い値を示しているが、「配偶者の親を大切にしてほしい」という値が高くなっていることには、日常の中で親を尊敬し大切にすることと同時に、結婚後の将来的な親の介護等に関しても自分に期待されていると考えていることの表れであるとする。

表4 家庭内役割の配偶者からの期待（2013年）

NO	順位	項目内容	平均	標準偏差	人数
10	1	私の親を大切にしてほしい	4.85	.410	110
21	2	家計に関心をもってほしい	4.83	.376	110
23	2	炊事・後片付けをしてほしい	4.83	.402	110
24	2	掃除・洗濯をしてほしい	4.82	.410	110
22	5	きちんと整理整頓してほしい	4.79	.454	110
11	6	あなたの親を大切にしてほしい	4.78	.502	110
25	7	食料の買出しをしてほしい	4.75	.478	110
12	8	私の職業や活動を理解してほしい	4.66	.605	110
6	9	自分の健康に気をつけてほしい	4.65	.537	110
13	10	家庭の団楽を大切にしてほしい	4.63	.578	110
20	11	近所づきあいをうまくしてほしい	4.60	.618	110
15	12	私の交際会合出席を自由にさせてほしい	4.49	.673	110
5	13	私の話を聞いてほしい	4.43	.669	110
8	14	計画性をもってほしい	4.38	.646	110
7	15	教養を身につけてほしい	4.37	.644	110
16	16	私によく話してほしい	4.28	.789	110
17	17	在宅時間を多くしてほしい	4.23	.847	110
1	18	職務に忠実であってほしい	4.16	.809	110
14	19	夫婦で一緒に遊ぶ機会を作してほしい	4.05	.921	110
4	20	社会に関心を持ってほしい	3.97	.921	110
18	21	性生活に調和するようにしてほしい	3.71	.829	110
2	22	生活費をきちんといれてほしい	3.59	1.012	110
19	23	趣味や娯楽で一致するようにしてほしい	3.48	.944	110
3	24	家庭の中の重大問題を決めてほしい	3.16	.821	110
9	25	壊れたものの修理をしてほしい	2.50	.901	110

平均値が低い項目は「性生活に調和するようにしてもらいたい」3.71、「生活費をきちんと入れてもらいたい」3.59、「趣味や娯楽で一致するようにしてもらいたい」3.48、「家庭の中の重大問題を決めてもらいたい」3.16となっている。これらの項目に含まれる内容からいえることは、夫婦で共に楽しむこと、家庭の中で経済的に中心になることや決定権を持つことに関しては比較的期待されてはいないと感じていることがわかる。

このように見ていくと、配偶者に期待されているという順番としては、「親（特に配偶者の親）重視」「家事」「家庭と近所付き合い」「配偶者への理解」「回答者の人格向上」「経済的基盤」となっており、これらの特徴として考えられる点は、「親（特に配偶者の親）重視」の期待が高いと感じている「家事」を中心とした従前の妻像を期待されていると感じている「家事」を求められ「経済的基盤」を求められていないなど性（夫婦）役割を意識していることなどが考えられる。

2. 配偶者への期待と配偶者からの期待値比較

家庭内役割の配偶者への期待と配偶者からの期待の平均値比較を表したものが図2、また、期待する項目から期待される項目の平均値の有意差を表したものが表5である。

25項目中16項目に有意差が見られ、期待する値が期待される値を上回っている項目は「生活費をきちんと入れてもらいたい」($t = 11.87, df = 109, p < .001$)、「壊れたものの修理をしてもらいたい」($t = 10.08, df = 109, p < .001$)、「職務に忠実であってもらいたい」($t = 3.91, df = 109, p < .001$)、「家庭の団楽を大切にしてもらいたい」($t = 2.24, df = 109, p < .05$)、「自分の健康に気をつけてもらいたい」($t = 2.01, df = 109, p < .05$)であり、期待される値が上回っているものは「食料の買い出しをしてもらいたい」($t = 15.45, df = 109, p < .001$)、「炊事・後片付けをしてもらいたい」($t = 15.33, df = 109, p < .001$)、「掃除・洗濯をしてもらいたい」($t = 14.37, df = 109, p < .001$)、「きちんと整理整頓をしてもらいたい」($t = 8.75, df = 109, p < .001$)、「家計に関心をもってもらいたい」($t = 6.63, df = 109, p < .001$)、「在宅時間を多くしてもらいたい」

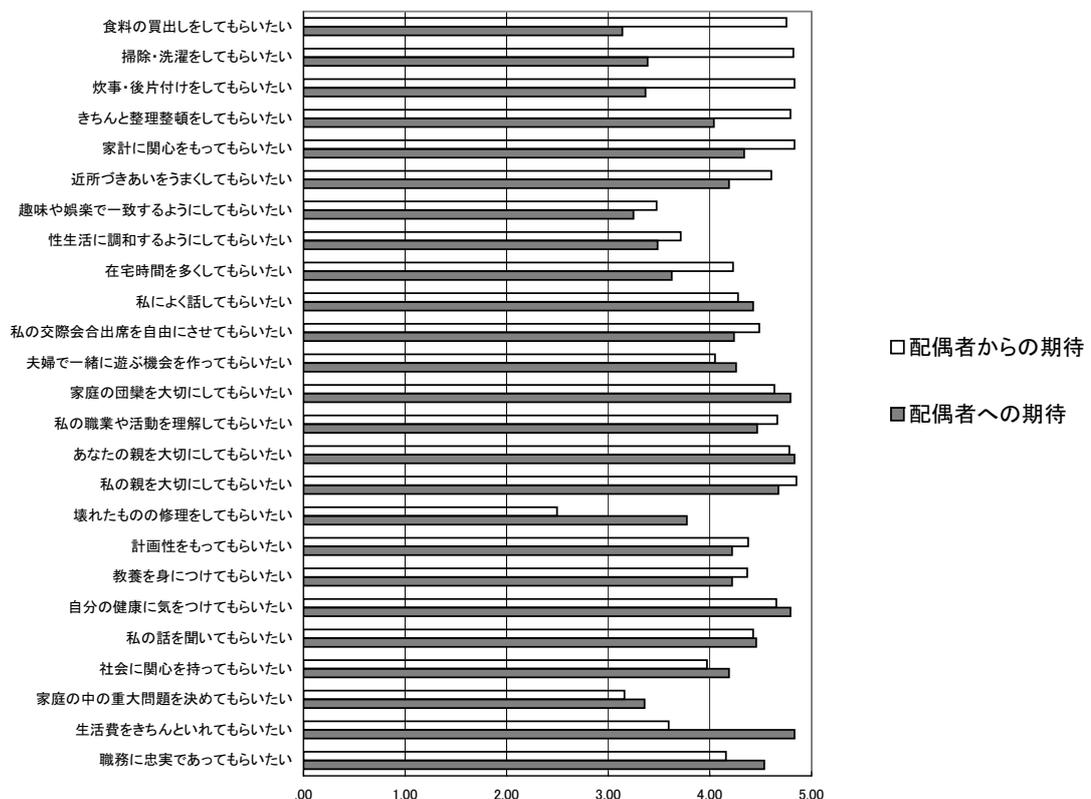


図2 配偶者への期待と配偶者からの期待値比較

表5 配偶者への期待と配偶者からの期待の平均値比較

NO	項目	期待する(N=110)		期待される(N=110)		t値	検定
		平均	標準偏差	平均	標準偏差		
2	生活費をきちんといれてもらいたい	4.83	.402	3.59	1.012	11.870	***
9	壊れたものの修理をしてもらいたい	3.77	.968	2.50	.901	10.080	***
1	職務に忠実であってほしい	4.53	.593	4.16	.809	3.916	***
13	家庭の団欒を大切にしてほしい	4.79	.454	4.63	.578	2.249	*
6	自分の健康に気をつけてほしい	4.79	.476	4.65	.537	2.016	*
4	社会に関心を持ってほしい	4.19	.689	3.97	.921	1.977	+
14	夫婦で一緒に遊ぶ機会を作ってもらいたい	4.26	.833	4.05	.921	1.749	+
3	家庭の中の重大問題を決めてほしい	3.36	.855	3.16	.821	1.743	+
16	私によく話してほしい	4.43	.669	4.28	.789	1.499	n.s.
11	あなたの親を大切にしてほしい	4.83	.449	4.78	.502	0.768	n.s.
5	私の話を聞いてほしい	4.46	.656	4.43	.669	0.331	n.s.
7	教養を身につけてほしい	4.22	.782	4.37	.644	-1.530	n.s.
8	計画性をもってほしい	4.22	.769	4.38	.646	-1.646	n.s.
19	趣味や娯楽で一致するようにしてほしい	3.25	.953	3.48	.944	-1.772	+
18	性生活に調和するようにしてほしい	3.49	.795	3.71	.829	-2.070	*
10	私の親を大切にしてほしい	4.67	.776	4.85	.410	-2.121	*
12	私の職業や活動を理解してほしい	4.47	.729	4.66	.605	-2.183	*
15	私の交際会出席を自由にさせてほしい	4.24	.750	4.49	.673	-2.565	*
20	近所つきあいをうまくしてほしい	4.19	.784	4.60	.618	-4.351	***
17	在宅時間を多くしてほしい	3.62	.936	4.23	.847	-4.993	***
21	家計に関心をもってほしい	4.34	.682	4.83	.376	-6.634	***
22	きちんと整理整頓してほしい	4.04	.774	4.79	.454	-8.757	***
24	掃除・洗濯をしてほしい	3.39	.959	4.82	.410	-14.374	***
23	炊事・後片付けをしてほしい	3.37	.913	4.83	.402	-15.331	***
25	食料の買出しをしてほしい	3.14	.980	4.75	.478	-15.454	***

表中 ***・0.1%, **・1%, *・5%, +・10%水準の有意差あるいは傾向を示す。

($t = 4.99, df = 109, p < .001$)、「近所付き合いをうまくしてほしい」($t = 4.35, df = 109, p < .001$) などとなっている。

これら期待している項目と期待されていると感じている項目をみると、経済的に家族を支えるのは男性であり、家庭において家族の生活を守るのは女性という明らかな性別意識が見られる。

【まとめ】

今回の女子大学生の調査に於いても、配偶者に期待する項目あるいは期待される項目について男性性、女性性を意識しているという結果が得られた。

しかしながら配偶者に期待するものは1991年度の調査結果とは様子が異なっていた。1991年と2013年の配偶者への期待差からみると1991年当時は「家事」は私(女性)、「家庭の重大事決定」は配偶者(男性)そして、夫婦間の「理解」「会話」「趣味・娯楽」などコミュニケーションを重要視していた。これが2013年度は、配偶者に対して「家計への関心」「整理整頓」「職務に忠実」「掃除・洗濯」「炊事・後片付け」などの期待が高まり「重大問題の決定」は低くなるというよう

に、配偶者に対して依存関係よりも、互いの自立を重要視している結果となった。これらは、夫婦のあり方のイメージが家父長制度下における、いわゆる男性が主、女性が従という関係から、男性性あるいは女性性を活かした協力体制へ(1991年)、そして性差を越えて個々人の自立へ(2013年)と変化しつつある様子を捉えている。

因みに今回の対象学生に後日追加で「男は外で働き女は家庭を守るべきだ」の賛否を問うたところ賛成17.3%、反対80.7%、その他2.0%であり、前出の1988年の値から大きく変化し、当時のアメリカとほぼ同じ値であったことも興味深い結果であった。

また、一方、2013年度「性生活」「趣味・娯楽」「在宅時間」「会話」など夫婦間の時間を楽しむという期待は低くなり、両者の「親を大切に」という期待が増している。このことは、親孝行精神が重要視されているという道徳的な好ましさを感じる一方で、少子化時代における親子関係の濃厚さ、親子分離の難しさなどを漂わせているものではないかと考える。さらに、夫婦の時間を大切にするという期待の減少は、夫婦の時間はすでに充足されているためにあえて期待する必要が無くなったとも考えられるが、夫婦間の時間に魅力

を欠いているということも考えられる。この現象の拡大は今後の少子化現象にも影響を及ぼすものとなることが考えられる。

今後、男性の意識がどのような変化を遂げていくか、また、現代の若者が配偶者に期待している新たなものは何なのか、などをさらに対象者を拡大して調査しながら夫婦の関係性について検討を進めたいと思う。

【参考文献・資料】

1. 「自宅から通う女子大生の生活基礎技能に関する調査」
渡邊晴美 原崎聖子 福岡女学院大学紀要 人間関係
学部編 第14号 2013年3月
2. 布施晶子：「結婚と家族」岩波書店 2001年
3. 「男女の性役割に関する調査研究」篠原しのぶ 福岡
女学院大学紀要 第6号 1996年2月
4. 「配偶者への役割期待に関する調査研究」原崎聖子
篠原しのぶ 九州心理学会第53回大会発表論文集 1992
年
5. 岩原信九郎：「教育と心理のための推計学」日本文化科
学者 1976年
6. 「夫は外、妻は家庭」なぜ増加 朝日新聞 2013年1月
10日・1月11日